

加藤智裕（一橋大学・院）

「ケネディ政権期の南アジア政策：1961-63年

～南アジアにおける冷戦の激化とインド洋への進出～」

<要旨>

修士論文では、なぜケネディ政権は「印パ双方重視」政策を展開したのか、というリサーチ・クエスチョンを立てた。ケネディ政権期の南アジア政策には、他の冷戦期の政権と異なり、インドへの接近政策が展開されたという点に特徴がある。また、ケネディ政権は、南アジアにおいて多くの困難に直面した。その中でも特に南アジアの国際関係を大きく変動させることとなった出来事が、62年10月20日に勃発した中印国境戦争であった。

これまでの先行研究では、ケネディ政権の南アジア政策を論じる際に、中国要因が注目されてきた。しかし同時に、ほとんどの先行研究では、アメリカの対インド政策によって対パキスタン関係が影響されたとしてはいても、ケネディ政権の対パキスタン政策がいかなるものであったのかが明確に描かれていない。さらに、マクマーン (Robert J. McMahon) やスティール (Tracy Lee Steele) は、ケネディ政権はインドとの関係を進展させるために、パキスタンとの緊張関係を積極的に受け入れたと主張している。しかし、見落としとしてはいけないのは、中印国境戦争後もアメリカはパキスタンを西側陣営に引き止めようと画策していたことである。これらの先行研究に対し修士論文では、なぜアメリカはパキスタンを重視し続けたのか、という分析視角を設定することで、ケネディ政権がインドとともに、いかにパキスタンを重視していたのかを明らかにし、アメリカの南アジア政策と中東政策との連関やケネディ政権のインド洋進出の論理といった新たな政策課題を浮き彫りにした。

以下に、ケネディ政権が「印パ双方重視」政策を決定・促進した要因を簡潔にまとめる。第一に、パキスタン要因である。アメリカが対印政策の阻害要因としてパキスタンを捉えていた訳ではなく、共産主義の脅威からのインド亜大陸防衛の他に、中東防衛の必要性からも、パキスタンに戦略的重要性を見出していたことを明らかにした。

第二に、ソ連要因である。アメリカが「印パ双方重視」政策を必要としたのはソ連の脅威に対処するためであり、中印戦争が勃発する前、米ソはインドへの援助競争を演じていた。そして、中印戦争後、対印援助を実施していたという事実と中ソ対立が存在していた事実が重なり、ソ連はインドへの軍事援助も大規模には行えなくなった。それに代わり、アメリカがインドへの接近を図っていくことになった。しかし、ソ連はそれでインド亜大陸への浸透を諦めたわけではなかった。そのころソ連は、北の方面、すなわち、イランやアフガニスタン、パキスタンへの接近によってその影響力を保持できるよう画策し始めていた。つまり、米ソの競争の舞台はインドから、イラン、アフガニスタン、パキスタンと

いう、より広い舞台に移行していたのである。このように中国の脅威だけではなく、その中国と仲違いしていたソ連の脅威もアメリカの「印パ双方重視」政策を後押ししていたのである。

第三に修士論文では、アメリカの政策決定過程におけるイギリス要因の重要性を明らかにした。イギリスは、中印戦争が勃発し、インドへの緊急軍事援助が必要になった際には、アメリカと協調してその援助を実施していくことを決めた。この時までアメリカは、イギリスが援助のイニシアチブを取ることを期待していた。その後アメリカは緊急援助だけでなく、継続的な対印軍事援助を実施していくことを志向していたが、イギリスはそれを継続する条件として、印パをカシミール交渉のテーブルにつかせ、その解決を実現することが必要であるとした。一方、アメリカもカシミール交渉の進展を重要視していたものの、対印軍事援助の継続を決定する際の要因とすることには同意しなかった。そして実際に、印パのカシミール交渉が決裂したことによって、イギリスの姿勢は消極的なものとなり、米英間の歩調が合わなくなったのである。アメリカは中国に対する抑止として、対印軍事援助が必要であると説得を試みたが、イギリスは国内の財政状況が逼迫していることのほか、中国の脅威がインドよりも、香港や東南アジア地域に及ぶことを恐れていたのである。

このように筆者は、中印戦争が沈静化していた状況の中で、米英の対中脅威認識には明らかな溝があったことを指摘した。そしてイギリスの消極的姿勢に直面したアメリカは、イギリスがインド亜大陸の防衛を主導していくという期待を捨て、今後はアメリカが主導してインド亜大陸の防衛にコミットしていく必要性を認識し始めた。以上のように、インド亜大陸防衛の主導権がイギリスからアメリカに移行し、アメリカが印パの双方を気にかけるようになったことから、イギリス要因がアメリカの「印パ双方重視」政策を促進していたと言えるのである。